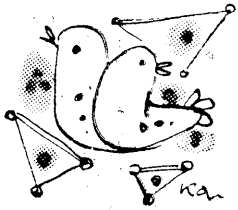
幼稚園に於ける問題児とその指導

海　卓　子



一、幼稚園に於ける問題児について

問題児といえば、智恵づきがおくれている。泣く、云いつけ口をする、嘘をつく、盗癖があるなどと色々の種類の問題が考えられる。しかしここでは私共が保育上、非常に大切だと思って躾けている目標から外れていて、しかも取扱いによっては変化すると思われるものを、取上げることにした、従って精神薄弱によるもの、性格異常のものは除く。

二、理想とする人間像と問題児との関係

或時代に正しいとされた人間の行動が次の時代には否定されることは往々にしてあることである。

例えば〃腹がすいてもひもじうない〃というのがよい子であった時と、〃腹がすいた〃とはっきりいえるのがよい子である時代との差である。

従って何を問題とするかは、その時代、その国、その人によって異り一様ではない。但し或時代に於いては、どのような人間像が好ましいか正しいものかは一つであろう。

この正しいと思われる人間像に照し合せてみてちがっている行動、これが問題行動である。幼稚園で問題児と云えば、或時代に或社会を背景にしてそこに築かれた家庭、ここに誕生し生育して方向づけられた子供の行動、この子供の現実の姿の上に好ましい理想像が描かれる。この理想と現実との〃ズレ〃これが問題行動を形成すると思われる。

例えば山手住宅街を控えた当園の園児はその多くが甘やかされ、手をかけられて、自立性に乏しく行動も消極的で然も自分中心で、いつもチヤホヤされてなければ気分の安定が保てないと云う弱点を持っている。

因に現在の社会では独立心に富み、他人の存在を認め、困難に耐える強靱な性格を要求している。幼児は幼児なりに幼稚園という集

団生活の第一歩からこの課題を負うてスタートせねばならない。

三、保育に於ける指導目標について

この観点から、本園で特に重要視していた指導のねらいをあげれば次の通りである。

1、自立性

何でも自分でしょうとする気持になること。

自分の感じた事やしたいことを他人に言葉で伝えること。（泣いたり身振りをしないで）

失敗したり、むずかしい問題にぶつかった時に人に頼らないで、自分でやってみようとする気持になること。

他人のほめ言葉や非難に左右されないで自分がよいと思ったことを最後までやり通すこと。

2、自律性（他人のいうことにつられないで自覚的に行動すること）

自分から必要を自覚してきまりに従うこと。自分でどうしたらよいか、考えてきまりを作ること。

3、協力する態度

他人と一しょにする気持になること。

目的を持って行動すること（目的性）

相手の云い分が正しい時には進んで譲ること。

相手がまちがっている時には、はっきり抗議をすること。

仕事を分担すること。（計画性）

自分のすべきことには責任を感じて最後までやりとおすこと。（責任感）

四、問題行動とその原因

以上の指導目標に照し合せてみて、問題児の問題行動と、その原因と思われるものをあげると次のようになる。

1、自立性に欠けるもの

a 問題となる行動。

附添から離れない。

すぐ泣く。

自分から仲間に入らない。

先生（又は特定の子供）の傍にいないと気がすまない。

何でも他人にやってもらいたがる。

思わせぶりな態度をとって、自分の意志を言葉で伝えない。

他人にほめられたり、けなされたりすると必要以上に気にする。

b 原因と思われる事柄。

過庇護によるもの。

長子、末子、又は身体虚弱、或は大人の手が多かったりして必要以上に庇われているもの。

独り子などで、子供の発達程度がわからず、知らず知らずいつまでも赤坊扱いにしていたもの。

幼稚園に於ても、みそっかす的存在（例えば四歳児の中に三歳児が混じたり、その他の事情で）になった場合はこの傾向を助長する。

2、自律性に欠けるもの

a 問題となる行動。

見た眼には何も問題がないようであるが、〃云われたからする〃〃みんながす

るからする〃というので自覚的な動きは見られない。

時には雷同的に動く。

新しい問題が起きた時に、自分で適当な処置の方法がみつからない。（例えば、出入口が混んでいたり、大勢で遊ぶ時に遊具が足りなかったりした時など。）

b 原因と思われる事柄。

形式的な躾けによるもの。

大人が指図するばかりで、子供が自分で考えて行動するように躾けていないもの。

放任によるもの。

明確な教育方針がなく、子供のするままに任せ、規律がない場合。

教育方針に一貫性をかくもの。

家族間の不和、意見の相違などにより、規律が乱れている場合。

（註）「自立」と「自律」は並行する場合も多いが、便宜上ここでは分けて考えた。

3、協力的な態度のとれないもの

a 問題となる行動。

共通の目的を持って行動することが出来ない。

相手の立場を考えて行動することが出来ない。

相手がまちがっていても抗議をすることが出来ない。

仕事を分担して、最後までやり遂げることが出来ない。

b 原因と思われる事柄。

その年令なりに、独立した人間の一人として、事の善悪で裁かれていない。（例えば何かにつけて〃お兄ちゃんだから〃〃女だから〃というように）

大人の生活態度が自分中心で、社会人として自覚が少く、孤立している。

「独り子」などで対等の交渉を持つ相手がいない場合。

五、問題児の指導

問題児の問題の原因は以上のように、幼稚園に入園するまでに生育した家庭環境にあるとしても、幼稚園という集団生活の一定条件の場面で、問題が発生したとしたならば、この条件を調べて、問題解消のための指導をしなければならぬ。

例えば、はにかんで遊びに入らない場合、何がこどもの行動を阻んでいるのかよく観察する必要がある。

集団の中で気持の安定を欠く理由としては、集団の大きさ、仲間の質、集団に於けるこどもの地位、又こども自身の遊びに対する興味、自信などが考えられ、更に集団と子供の橋渡しをする人の有無（教師又は仲良しの子供など）も一つの要因となろう。

こうして問題児の問題を解消するために、好ましい仲間、あそび、問題児に対する一般幼児の評価、等について適切な指導を行い、一般幼児の好ましい方向への生活の昂りは、知らず知らず問題児をも抱き込んで前進するものである。

家庭に問題行動をよく認識させ、家庭生活に於ける原因を除去すべく、養育態度を改めさせることは云うまでもない。

次に幼稚園に於ける指導例を二、三具体的に記してみよう。

1、自立性を欠くもの

全く自立出来ていない幼児を、集団に仲間入りさせた事例。

幼児名　T、S（男、昭和二四、七、生れ）

指導者　畑谷　光代

○集団生活の当初、問題となった点。

全然、自立性のないため、大人と直接接触していないと、極度の不安を覚える。園生活の総てが、彼にとっては危機的場面であり、その場面に立たされると、泣いて訴えるというのが、彼の自己表現のすべてであった。

○原因と思われる点。

虚弱体質で年に一度　必ず自家中毒にかかり、その結果、家庭では極度に庇いすぎたところから、依頼心の強い傾向が生じたと思われる。尚、三歳ちがいの姉一人いるが、祖父が当家の後継者として、多分に期待し、寵愛したため我儘を助長している。

○その扱いと、経過について

（四月～五月）

Tは、母親の手から教師に手渡された時の不安な状態は、全く病的で、全神経を集中して周囲の刺戟におびえていた。教師の手につながっている事、又、スカートに懸命にしがみついている事が、せめてもの彼の安定であった。

（六月）

六月になって当番を実施し、彼の最初の当番の日のこと――個人的にその手順を教えるが、ことごとくできないと云って手を出さない。励しながら、やっとバケツの水を手伝わないで運ばせる。この時得た経験から自分の力を認めさせ、クラスの幼児たちにも知らせる。そして〃Tちゃんは、先生のスカートにつかまっていて、先生はこまる。きっとお友達が出来ればこんなことはしないと思う〃と提案する。その後の自由遊びの時、M子とK子が、Tを中に手をつないで庭を歩いていた。翌朝、送ってきた附添からすぐK子M子の手に渡す。時々教師のスカートが恋しくなる時は、ふざけ乍ら逃げ廻ると、鬼ごっこになって喜ぶ。これを三日間、繰返している。と、自由遊びには、すっかり教師の手をはなれた。M子とK子の親切をほめると、ますます友達が増したが、この時の交友関係は、庇う、庇われるの関係であった。

（七月）

但し、七月まで、一日に一回以上必ず泣て訴える状態が続いていた。自分の場所がない、スキップが出来ない、友達の注目を浴びた時、持物をなくした時等々、困った時は、泣いて解決しようとする。それで、子供仲間で〃ドウシタノ？〃と、その理由をきかせ、その処理もクラス全体で考えるようにしむけた。彼は素直に友達に助けられて、自立へと一歩一歩ふみ出した。

（九月）

九月十四日。二学期の最初の日は、入園当初に逆戻りする。附添いの手をはなれず泣く。部屋に入っても、〃スワルトコロガナイ〃と泣いて、不安の表情が濃い。K子M子に手をつないでもらうとほっとした様子。

九月十五日。翌朝も附添いを追って逃げ

だす。〃M子ちゃんたちでよんできて―〃と後を追わせたが、〃センセイ、ヤッパリカエッチャッータ〃〃センセーもユカナクチャー〃と戻ってきた。一応連れに戻したが、何の誘いも受けつけないので、〃それじゃ、一人でかえりなさい〃。と突放し、直ちに家庭と電話連絡をして、その処置を打合わせておく。

九月十六日。クラス全体の庭の草取り作業、例の調子で出来そうもない事には手を出さない。〃Tちゃんは、ぬいた草を集める人になって―ね〃。と云えばその気になる。〃Tちゃんが、草を集める人になりましたよ〃。とみんなに伝える。みんなが、〃ココニアルヨ〃とTをよぶ。彼は役割りを認められたので、責任を果そうとする態度がみえてきた。そこで今度は、〃Tちゃん、あそこでSちゃんが抜けなくて困っているから手伝ってあげたら?〃と声をかけるとすぐSの後につながる。〈これはこの直前にそうした他の子供達の協力をみたので―〉が、協力してひっぱる要領がわからない。そこへバラバラと三人の幼児がTの後に更につながってひっぱったので、TはSにしがみつく。みんなで尻餅をついてやっと抜けた時の明るい笑い声がしばらく続く。この笑いと痛さの中で、Tが新しく体験したものは得難いものとなり、その後目立って積極的になっていく。

(十月)

一人で登園出来ないTについて、クラス全児に相談をもちかける。

〃アカンボミタイデイヤニナッチャウ〃

〃ナキムシダ〃

批判の声が出たので、〃みんながもう一息助けてあげると、Tちゃんは強くなると思う。と提案する。〃Yちゃんが近いからさそってあげるといいね〃。と云う意見に落ちつきYも承知した。翌日から順調に登園できるようになり、クラス全児と共に喜ぶ。

(十一月～十二月)

「泣き虫くまちゃん」と題して、クラスで創作話をつくる事にした、Tを主人公にし、本人も頑張り、仲間もこれを助けて強いくまちゃんにすると云うねらいで、幼児達の話しを抽き出しまとめる。Tも仲間に加わり、その創作話を絵本にまとめあげた。

この頃になると、泣きたい時も、自分からつとめて我慢する様子もみえ、周囲の幼児たちもこれを認めはじめた。

〃センセーTチャンハ、今日チットモ泣カナイノ、ツヨクナッタネ〃。と喜び合う。

〃アッ!Tチャン、オシイナアー、今日ハマダ一度もナカナカッタノニー〃と励すようになる。

(一月～三月)

三学期はじめは、別に逆戻りもせず、スムースに仲間入りできる。帰途には、友達をいじめたりする傾向さえみえてきた。そして困った時には、言葉で訴えるように仕向けたので泣きべそをかきながら、言葉で表現するようになった。

(年長組)四月～七月

クラスメムバーを組替した時最も頼っていたYとクラスをはなしたり、保育室を替えた。種々の生活条件が変ったため帽子かけに自分の名前がないと云って泣く。**16頁に続く**

十二月〇日　今週一杯は犬の声も姿もない。どうしたことだろう、収容所を他の支所に遷して呉れたのか、兎角うれしい限りである。たゞ頭が下る。

十二月〇日　「大変落着いていますね、こうした環境の中で育つ松江の子供は幸です」と参観人の言葉、確かに入園当初とは遊びの様相が変って来た。「おれ、おまえ、てめえ、あたい」の言葉も一応、「僕」あたしと云うようになり、乱暴な行動もみられなくなった。十月に就学前の歯科診療をしたとき歯科医師から「口腔衛生は実によく出来ている」と賞讃の言葉をいたゞいたのも毎日の衛生指導の習慣の表われである。今日までと同じような努力がこれからも続く。(十二月九日記)

(江戸川区立松江幼稚園長)

32頁より　自分の帽子かけの前に板がおいてあったので、どうしてよいかわからないといって泣く。以上のように、非常に単純な事でも、平常と一寸変化のある条件では、おろおろして泣く。一学期は比較的この様な危機的場面に追い込まぬよう教師も、友達も助力する。泣いている時は、そのままなだめず本人の努力で解決させるように仕向ける。そして時には強く叱り、友達の協力に甘んじる態度を警戒する。

このような扱いの中で、当然、家族たちの(特に母親の)Tへの扱い方で連絡をとりつつ、家庭でも自立するように働きかけてもらった。そして七月には家族から全く離れて、四泊五日の合宿保育に参加させることができた。そして彼は、合宿生活で更に自信を持ち、誇りを抱く程になった。

(白金幼稚園)

☆新　刊☆

29年度　**研　究　集　録**

長い間お待ちいただいた本年度の研究集録が出来ました。本書は去る六月二、三、四の三日間の、教育実際指導研究協議会における講演研究発表、実際指導、研究討議会などの、幼稚園関係のものを全部集録したものでございます。

御入用の方は、実費送料共一部 120円を添えて下記へお申し込み下さい。

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
幼児教育研究会

昭和29年12月

お茶の水女子大学附属幼稚園内
幼児教育研究会